

令和3年度 学校評価報告書

【評価】 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分であった D:全く不十分であった

島根県立飯南高等学校

評価計画				自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策・取組の方向性
重点目標	具体的目標	R3 重点的な取り組み事項	R3 評価指標	評価	取り組み状況(○)と課題(*)	評価	意見	
(1) 主体的に学び、確かな学力を身につけた生徒の育成	① 学びへ向かう姿勢を大切にし、主体的・対話的で深い学びを実現する	・教科会、教科主任会 ・授業参観、研修(校内、他校、異校種等)	・授業見学の回数、感想 ・生徒による授業評価 ・校外研修等への参加状況	C	○教科の枠を超えた授業参観を積極的に行なうことができた。 *学習習慣の確立や、「話し合い活動」を効果的に取り入れた授業改善	B	<p>多くの生徒が飯南高校で良かったと思える環境が、地域や教職員とさらに連携することで作り上げていけばよいと思う。</p> <p>進路に関する本もたくさん配架したので、授業等で図書館をさらに活用してもらうように働きかけていく。</p>	
	② 飯南型キャリア教育 「生命地域学」の充実	・ねらいを明確にした「生命地域学」の実践 ・主体性、発信力を重視した課題研究 ・キャリア教育の体系化、視覚化	・生徒、教職員のアンケート結果 ・講師、協力機関からの感想、評価	B	○「生命地域学」の実践は、地域や関係機関の支援も得て充実させることができた。			
	③ 図書館を活用した学びの促進	・資料整備、広報、委員会活動の工夫 ・図書資料や新聞を活用した探究学習 ・朝読書	・図書館の活用状況、便りの発行回数 ・委員会活動の回数、評価 ・生徒、教職員アンケート結果	A	○図書館の授業での利用機会も増加し、進路に関する本もたくさん配架することができた。			
(2) 進路希望の実現	① 主体的に進路選択できる生徒の育成	・進路学習等をとおしての早期の意識醸成 ・面談、個別指導 ・企業見学、学校見学、ジョブフェア	・学習時間調査の結果(推移) ・進路決定等の状況 ・生徒、保護者アンケート結果	B	○職業人講話や大学短大授業体験の取り組み等、年間を通して進路探究活動を行うことができた。	A	<p>高校(生)と地域とのかかわりを大切にしたい。公民館として何ができるか、ホストファミリーとして何ができるかを考えている。小さなつながりを増やしていくこと、そのような機会を持つことの必要性を強く感じている。</p> <p>1年生で学問・職業を知り、2年生で見学・体験を行なうことを通して、3年生で進路決定できるような流れを大切に指導していく。</p> <p>生徒面談や保護者面談の時間が確保できるよう、特別時間割等で対応する。</p> <p>中学校、高校、地域との繋がりが深くなるよう、飯南ジョブフェアを充実させる。</p>	
	② 生徒や保護者への適切な情報提供	・進路指導部と学年会との連携 ・保護者面談等をとおしてのニーズリサーチ ・HPや学校により利用した情報提供	・保護者アンケート結果 ・面談等での保護者の感想、評価	A	○講演会や保護者面談等の機会を捉え、適宜情報提供できた。			
	③ 地域貢献しようとする生徒の育成	・インターンシップ、体験学習、課題研究 ・飯南ジョブフェアの拡充 ・生命地域ラボ、地域交流の促進	・活動実績 ・活動後の生徒や関係者の感想、評価	B	○課題研究等の活動を通して、地域の良さを再発見し地域貢献への意識を高めることができた。 *コロナ禍で地域での生徒活動を受け入れていただくことが難しい状況下での、地域活動の工夫			
(3) 望ましい人間関係づくり	① 互いの人権を尊重する学校づくり	・いじめ防止と組織的な対応 ・早期の情報モラル教育	・HR活動や講演会後の感想、評価 ・人権だよりの回数、評価 ・生徒、保護者、教職員アンケート結果	B	○人権だよりの発行やHR活動の場面を活用し、人権意識の高揚を図ることができた。	A	<p>昨年に引き続きコロナ禍で大変な1年であったが、生徒が自分達で考えて、行動することや学校生活を送ることは良かったと思う。</p> <p>生徒、教員、そして地域が一体となって、飯南高校を魅力ある高校へ尽力されている姿に接する事ができた。引き続きご尽力いただきたい。</p> <p>生徒の活気あふれる学校生活を支援し続ける。(元気のよい挨拶、積極的な生徒会活動・部活動の推進)</p> <p>特別支援の充実は生徒の学校生活での満足度に直結する重要な課題があるので、専門機関による相談体制を強化するとともに、情報を共有して具体的な支援に繋げていく。</p>	
	② 支援を要する生徒への組織的対応	・学年会、委員会での情報共有 ・保護者、SC、諸機関との連携 ・校内研修実施、校外研修への参加促進	・生徒、保護者、教職員アンケート結果 ・研修後の感想、評価	A	○教職員間における連携を密にし、委員会の開催による情報共有ができた。 ○保護者や外部機関との連携に努めた。			
	③ 部活動・生徒会活動・特別活動の活性化	・生徒の主体的な活動の推進 ・HPや学校により、CATVによる情報発信 ・地域や保小中、諸機関との連携	・部活動加入状況 ・生徒、保護者アンケート結果 ・地域等からの感想、評価	A	○部活動や特別活動の運営を工夫し、環境整備等の支援に努めた。 ○あいさつ運動等、生徒会活動が活性化するよう支援した。			
(4) 健康で安全な学校生活の確保	① 学校生活のあらゆる場面での新型コロナウイルス感染症等の予防	・県立学校運営ガイドライン、新しい生活様式 ・迅速な情報発信	・生徒、保護者、教職員アンケート結果 ・チェックリスト評価	A	○新型コロナウイルス感染予防対策を含む安全管理等が推進できた。	A	<p>学校活動について、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらできることを考えていく。</p> <p>毎日の健康観察を通じて体調不良者を把握し、早めの療養の呼びかけ等引き続き予防に努めていく。</p>	
	② 健康的な生活を送るための自己管理能力の育成	・健康にいに～ん週間 ・保健講話 ・保健だよりを利用した情報提供	・健康にいに～ん週間の感想、評価 ・保健講話等の感想、評価 ・保健だよりの発行回数、評価	A	○各学期ごとに、健康意識を高めるテーマを設定し取り組むことができた。			
(5) 中高一貫教育の充実	① 教科指導連携の充実	・打ち合わせ時間の確保 ・共通認識をもっての授業実践 ・キャリア・パスポートの活用	・打ち合わせの実施回数、感想 ・中高一貫教育アンケート結果 ・連絡会議、推進会議での意見	B	○定期的な打ち合わせの機会を確保することで、充実した連携を行うことができた。 *キャリア・パスポートの教員間での共通理解	B	<p>高校に入学するまでに、生徒自身が「やればできる」「自分も頑張ればできる」と感じ、勉強をする事が楽しいと思い入学する事が大事だと思う。</p> <p>中高連携授業について、教員同士の共通理解を図りながら、授業改善等の協議機会を増やし、さらなる質の向上に努めていく。</p> <p>特別選抜について、高等学校入学に向けての学力の維持、向上につながる特別選抜内容の工夫、改善について引き続き努めていく。</p>	
	② 情報の分析・共有と指導	・交流授業、教科会、連携会議 ・授業互見、行事参加の促進	・中高一貫教育アンケート結果 ・連絡会議、推進会議での意見	B	○中高R54ボランティア清掃活動等、行事内容の改善充実に努めることができた。			
	③ 学力向上につながる特別選抜の実施	・中学校、町教委との連携 ・保護者、地域への説明	・担当者会議、推進会議での意見	B	○英語による面接の実施や、課題レポート発表の方法改善を行った。			
(6) 「学校と地域の協働による人づくり推進事業」による魅力ある学校づくり	① 高校魅力化コンソーシアムの構築と教育魅力化推進事業の活性化	・推進協議会(キラドリ会)との連携 ・委員会、研修会における説明 ・グランドデザインの作成	・推進協議会(キラドリ会)の意見、感想 ・学校評議員会の意見、感想 ・研修会における質問、意見、感想	A	○グランドデザインを作成し、教職員間及び校内、地域との共通理解を図ることができた。	A	<p>PTA活動や鶴雲会等をとおして、地域と関わっていく。</p> <p>生徒と地域との交流の場、特に、授業の一環として地域貢献できる場がもっとあればよいと思う。</p> <p>生徒にとって安全、安心、快適な学校生活を送るうえで、制服の見直しを検討する。</p> <p>広報について、一層の充実を図る。</p> <p>寮長や寮生会の主体的な行動を促し、リーダーの育成とともによりよい指導を検討していく。</p> <p>寮の状況について、より詳しく教職員間で情報共有できるように努めていく。</p>	
	② 支援組織や保小中高大・保護者・地域との連携強化	・PTA、後援会、鶴雲会との連携 ・ホストファミリーとの交流促進 ・生命地域ラボの促進と情報発信	・連携事業の実施状況 ・ホストファミリーとの交流実績、感想 ・活動状況の発信回数、感想	A	OPTAや鶴雲会・地域の方々よりコロナ対策の一助としてご支援をいただき、活用させることができた。 ○生命地域ラボやホストファミリーは、コロナ禍ではあるが、地域との交流を図ることができた。			
	③ 生徒募集等のPR活動の充実	・在校生による『学校案内』や学校説明 ・HP、学校だよりによる迅速な広報 ・CATVや有線による地元への情報発信	・生徒、保護者アンケート結果 ・学校説明会参加者の評価 ・HPの更新状況	A	○魅力化コーディネーターと連携・協働し、PR活動の工夫を図った。 ○学校だよりやHP更新により、校内外に対して学校の様子がよくわかる内容や情報の発信を図ることができた。			
	④ 魅力的な寮づくり	・保護者、教職員、寮職員の連携 ・ホストファミリー制度による地域交流 ・生徒主体の秩序づくり、美化徹底	・寮生アンケート、寮生保護者の意見 ・教職員、寮関係職員の評価 ・委員会の活動状況	A	○月報尾葉だよりの発行により、保護者に対する細やかな情報発信ができた。 ○新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全な生活環境を保つことができた。			